

平成24年度 第2回福島町まちづくり合同会議

(開会6:00時)

○事務局

それでは、定刻になりましたので、第2回まちづくり合同会議を始めさせていただきますと思います。

会議の先立ちにお詫びということで、本来であれば、事務局挨拶をうちの鳴海課長の方からするはずだったんですけども、急きょ今日来られなくなりまして、私の方から挨拶というか、会議の進め方についてお話をさせていただければと思います。

会議については、第1回の会議ということで、5月の30日に1回行っております。その会議の進め方ということでも、前回、前年度3月に市民フォーラムの方から提言書ということで、ある程度大きい大項目という部分を定めておりまして、その部分について今年度は、その部分の実際の進め方という部分で、若い人たちに検討をしてもらっています。その内容について、まちづくり推進会議委員の皆さんの方からアドバイスということで、違う視点から、これを実現的にするにはどうすればいいのか、という部分で思ったことを、アドバイスしてもらいたいなということで、今日の会議の方は進めていくような格好で、前回は含めてそのような格好で動いております。

いずれにしろ、当会議の部分については、これからの福島町の未来に向かって良くしていこうということで、気

持ちのある方が参加していただいていることと、自分の方では思っておりますので、その部分では大変忙しい中ですが、今回を含めてあと3~4回会議を開催する格好になりますので、ご協力の方をお願いしたいと思います。

今後の会議の進め方については、協力をいただいているぎょうせいの方から進めさせていただきますので、よろしくをお願いしたいと思います。

○ぎょうせい

皆さんこんにちは。今日は大変お忙しい中、特にまちづくり推進会議の委員の皆様方にはまたご足労いただき、いろいろアドバイスをいただきたいと、こう思います。

今、担当の方からお話がありましたように、ぜひ皆さん方の知恵を若い人たちに貸してあげてほしいというのが我々の願いでございます。

今日も進め方としては前回と同じでございますけれども、お手元の資料を1つだけ、A4で作ってある資料、福島町まちづくり合同会議結果ということで、これは前回皆さん方にご協力をいただいて、各グループが発表されたものを整理しました。

私の方では、前回申しあげたとおり、コンサルの立場としての意見はほとんど入れてございません。これは、こ

れから全項目が終わった段階でまた、我々の方からの提案もさせていただきますが、ここにまとめてあるのは、まちづくりこの合同会議の意見として出されたものを整理したということでございます。

一つ、これからのことでどうなるんだということ、皆さま方特に気になさっている方もいらっしゃると思いますので、この資料の2ページ目のところを開けていただきますでしょうか。1枚めくっていただくと、施策の体系(仮)というのが書いてあります。今回は、この施策の体系、多様な雇用・就労の場の創出ということで、柱にすると13本ですか、これらについて一挙にご指導いただくという中でも、特に各グループが上位にあげていた3つを重点的にご意見いただいて、整理させていただきたいと思います。その中で、ここに重要度の高い項目として、グループ何位と書いてありますが、全項目検討はしていただいたんですが、今度どういうふうにやるかという、これは前回の分の整理ですけれども、例えば1の大きな項目の中に、中項目で1. 企業家育成、仕事起こし企業誘致などによる多様な雇用・就労の場の創出という項目で5本の柱がある。この中で、各グループを検討すると、上位に上がって来たものが③と④例えばこうあります。2のところでも上位のところでは②のところ、集積された地域資源活用とこうあります。これは、上位に上げられたものを得点化しまして、1位が5点、2位が3点、

3位が1点というようなことで点数化しますと、この場合に一番点数が高かったのは、2の新たな産業(商・観光)等の創出というところの②ですね。集積された地域資源活用というのが、1位で10点。

しかしこれは、例えばこの中で、時間のある時に読んでいただきたいんですが、読んでいくとその他の項目、一番上にあるスモールビジネス、要するに起業家支援策ですとか、もっと言いますと、今の②の集積された地域資源活用の上に、ここにはたまたま公設民営市場と書いてありますが、いずれにしても公設民営市場という言葉は抜きにしても、若い方々の職場づくり、出会いの交流の場づくりということについても、この集積された地域資源活用の中に、議論として整理されてきているんですね。ですから今度、この項目の体系をどう整理するか、前回時間がなくて、体系の整理まで進んでおりません。今回も、特にあとで議論していただくのも体系の整理は考えているんですね。各項目の柱について議論していただいて発表していただくと、今度は項目間の整理をしなければいけない。体系整理ですね。どれを中心に町にプロジェクトの提案書として提出するかというのは、次回全項目が終わった時に、どの柱とどの柱を一緒にしたほうが効率的だとかですね。何を優先的にやっていけばこの柱につながるとかっていう整理は、次回終わった後に我々の方で整理したものをまた皆さん方に提示しますので、そ

の中で議論をしていただくということで、見ていていただきたいというふうに思います。ですから、重要度の高い項目として、順位が入っていないところは、全部捨てちゃうという意味ではありません。ここに書かれているのは、相互に全部関連性がありますから、最終的にはそれらを整理した項目として、提案をしていくということだけご了解をいただきたい。

それから前回は、雇用・就労の場でしたが、特に子育て支援のところの検討でございますので、これは今日の合同会議の資料というA3の資料になります。これについて、大変申し訳ないです、下の番号がばらばらになっていますが、1ページ目の説明は再度になるのでしません。めくっていただくと、Ⅱ子どもや若者の居場所づくりということで、課題として1. 子どもや若者の居場所づくりと書いてあります。今回は、各項目で柱が5本ですので、前回は各グループのものだけグループに提示をしていました、数が多いものですからね。今回は、この5本のテーマですから、前回実は合同会議の委員の皆様方には申し訳ないが、前回若い人達がフォーラムで検討してくれたときに、3グループに整理して、3グループで検討していただきました。今日もそのグループに分かれていますので、各グループがどんなことを話し合ったかというのを一覧でまとめてあります。最初の資料2と右の頭に書いてありますが、下のページでは1になっているのを見ていただくと、

1グループ、2グループ、4グループとなっていますが、この3つのグループの意見を1つのところに載せてあります。ですから、相互のグループ、他のグループのことを読みながら自分のグループの意見を整理していただいても構わない。その方がかえってありがたいというふうに思います。だから、表としてはこの5本の項目ですね。今日このあと、めくっていただくと、子供の居場所で課題1が2つ、さらにめくって2が2つ、最後の5ページの学びと実践の連動というところ、ここまでについて各グループで整理をしていただくということになる。ですから、基本的には1グループの方は、1グループの自分たちのフォーラムの人たちがまとめたものを推進会議の委員の皆さんにもご支援をいただいて、さらに整理をする。こういうことになります。

それから、もうひとつお願いをしたいのは、フォーラムの方々にはたびたび申し上げているんですが、これは個別事業を何かを提案しているわけですから、委員の方々はよくお分かりかと思いますが、民間企業でいうと、5W1H、いつ、どこで、だれが、何を、どのように、こういうことがあるんですね。自治体でいうと、私はこれは6W2Hだと言っているんですがそのときに、コストというものの意識、今まであまりなかったんですが、どこに行っても財源というのは限られてきますから、イメージとして今ここでコスト計算をしろというわけではあり

ません。イメージとして、何か施策をやる時にはお金がかかるというイメージだけは持っていてほしいなど。こういうことも含めて少し、ご指導いただけるといいのかなと。そのために、少なくともその行政がやるべきこと、住民がやるべきこと、事業者がやるべきこと、こういうことについて、もしこの辺のこれは住民だよ、これは事業者だよ、というようなことがあれば、その辺をフォーラムの若い人たちに、少し意見を言っていたらありがたいなど。ここは私の方では何もうめておりません。でも、この町もそうですけど、住民と行政が共同しないと、これからはまちづくり少子化対策はうまくいかないということはもう明らかでございますので、その辺も少し見てあげていただけたらありがたい。

それから、備考のところに※印をうって下の方に書いてあります。この間発表を聞いたときに、私の方としてこういうことはどうなんですかということ、伺いたかったことを※印で全項目うめてあります。何かあったら言ってほしい。ということで、これらのことをもう少し思いに入れながら、進めていただけるとありがたいと思います。それから、もう少し資料の説明をさせていただきますと、何枚かめくっていただくと、前回の推進会議の委員の方からお話があったとおり、やはりちゃんと人口とかそういうのを分析してやりなさいよというご指示がありました。そういうことも含め

て、私の方でちょっと町の状況、特に子育て支援ですから、子供達の状況を再度この表にまとめさせていただきました。町の幼稚園、小学校、中学校、高校の児童数。それから、現在の小学校、中学校、高校、保育園、幼稚園の園児まで含めた児童数。これは、24年の5月1日現在。今年の5月1日現在の数字をうめさせていただきました。下の方のグラフを見ていただくと、これは、国勢調査の結果でございますので、もう皆さん方は当然お分かりかなと思いますが、それからもう一つ今度めくっていただくと、今度また表が出てきます。これは、広報ふくしま23. 1~24. 7にみる、子育て支援等の事業、行事の概況。こういうことで、この皆さん方の町で発行している広報。たくさんの方が書いてあるんですが、これを全部引っ張り出すわけにはいきませんでしたので、私の方でこの1年半の広報を読ませていただいて、直接的に事業でやっているもの、あるいはイベントでやっているもの。今回の議論、あるいは定住促進に関係のありそうなものだけを抜き出してここにあげております。これが、23年の1月から24年の7月号までです。今回の号までを載せてあります。そうすると、たとえば子育て支援で色々な事業をやっています。23年1月にゆりっこ広場だとか、ふれあい教室、よみきかせの会だとか一つしか書いてありませんが、広報を見ていたり、担当課の方、自分が関係している方はお分かりでしょうが、毎週やっていた

んです。何回もこうやっています。色々な地区を回ってやったりしている。その回数は書いてありませんが、いずれにしてもこういう事業がありますよというのをここにずらっと並べさせていただきました。

それから、もう一つは定住と町おこし、産業育成ということがありますから、ここの産業育成の欄は、この中で拾えるものがあつたら拾おうと思ったんですが、あんまりなかったの、たまたまこの町は大きなテーマが福島町マリビジョン、このことは毎号出ていますから、下の所に産業育成企業支援のところ、福島町マリビジョンのことを書いています。それから、その他のところにこれを見ていくと、必ずふるさと応援基金というのが、残額が載っています。これはどういう意図をもって寄付者が何かやっているかということ、私の方は一切考慮せずに、いずれにしてもこの町の皆さん方が役立ててほしいとして、応援基金という形で寄付をしてくださっているわけですから、新しいことをやる時にこういう基金の、例えば活用する方法があるのではないですかということを含めて、ここには一番下に基金のこの拾えるものだけ拾いました。

それからもう一つ下、人口これ書いてありますが、この広報の中を見ているだけでも、この町の毎月の人口がどう変わっているか、ということがあります。一覧表にしてずっとそこに載せてあります。これも今日整理をしていると、それだけで大変なことになって

しまいますから、一応検討していただくときに、こういうデータを見ていただきたい。

今日、特に私が協調したいのはその後ろです。縦で国勢調査の結果でこういう表が入っています。これを何か皆さん方、若い方々に気がついてほしいと思って、あえて今度の国勢調査の人口を載せました。ここでは申し訳ない、59歳までしか掲示しておりませんが、一番左に全国の年齢別の男女、真ん中に北海道としての男女、一番右端に福島町、こう書いてあります。見てほしいのが、この各票の男性一女性、男女差のところ。一番上の全国でいくと、当然長寿化社会です。高齢の女性群が多いから、全国でいくと一340となっているのは、男性から女性を引いていますから、一になるということは女性が多いということですね。一がついているところは女性が多い。男性が少ないと。全国で言うと、女性が340万人、人口としては多いというわけです。これは北海道でみると、約30万人女性が多いと。そりゃそうですね、平均寿命は女性の方が長いですから。

それからもう一つ、福島町でいくと、342人女性が多いんです。まあこうなっているんですが、実は見てほしいのは、表を見たときに見事に今この福島町の現状と国の少子化の中で何をやらなければいけないかということが見えてくるんです。

実はこの国を見ていただくと、国が、女性が多くなっているのは、50歳の

ところから。きっちり50歳から40
5人女性が多いんです。これ以降ずつ
と最後エンドレスで110何歳まで
女性が多い、こういうことになります。

それじゃあ、道はどうかと。北海道
を見てみますと、ちょっと形が違うん
ですね。24歳から女性が多くなって
いる。-104ですから、これは女性
が多いということです。で、ずっとそ
れ以降女性がだいたい多いんですね。
24歳。これちょっと覚えておいてほ
しいんですね。道は若い女性が多いん
です。全国で言ったら、若い女性は少
ないんです。ところが、福島町に来た
らもっと面白いことが実は出てきま
す。それは何かというと、福島町では、
これは5歳刻みになっていないから
申し訳なかったんですが、5歳刻みで
見ていくと、どういうことになってい
るかということ、高校を出たあとにがた
んと女性がいなくなっているんです
よ。福島町を見ると、ゼロからこの1
4歳までを見るとずっと、これは全国
でも珍しいんですね。女の子が多く生
まれて来ているんですから、ありがた
いことなんです。これからやっぱり女
性と男性が男女共同社会の中で、女性
が男性とペアになって結婚してくれ
ないことには子供が出来ないわけ
ですから、男性がずっと多かったら、い
くら頑張っても女性がいなければ子
供が減るにきまっている、福島町はこ
れでずっと見ていくと、ありがたいこ
とに女性が多く生まれてきている。と
ころが途中から見ていくと、高校を卒
業したくらいから5歳きざみで見ると

と女の子が突然、男の子が多くなっ
ちゃうんです。

例えば、簡単に申しあげますと4歳
までだったら女の子が7人多いと、5
歳から9歳まではちょうど男女比が
一緒。10歳から14歳で見ると、
女の子が一人多い。15歳から19歳
まで見ると女の子が22人多いんで
す。これは多分生まれた年でいきます
からね。ところが、20歳から24歳
になると男の子が9人多い。25歳か
ら29歳で見ると男の子が10人。よ
うするに、女の子達がたぶんこの町を
出て、高校を卒業して出ていくと戻っ
てきていないんですね。そうすると、
ほとんどこの男性が多くなってくる
と。これを、その次のページにたまた
まこの周辺4町ということで、表を作
ったり、この表をまとめるとまた時間
がかかりますが、何が言いたいかとい
うと、ようするに福島町は若い世代は
女性がいるんですね。松前も同じよう
な傾向になっています。ところが知内
にいくと、今度は男の子の方が20代
でも多くなっている。ずっとこのゼロ
からいっても知内なんかは見て分か
るとおり、29歳のところまではゼロ
から29歳までは男の子が多いんで
すね。ちょっと福島と違うんですね。

木古内へ行ったらもっとすごいこ
とになっていて、これは何が言いた
いかということ、この町を出たそのあと
は私も調べていませんが、最後には整
理して皆さんに申し上げたいと思うん
ですが、ここの町から女の子が出て言
ってしまうと、要するに本州の方に

くのではなくて、おそらく北海道のどこかの町にいるんですよ。函館なのか、旭川なのか札幌なのか分かりませんが、たぶん札幌圏じゃないかなという気もするんですが、だから北海道はその年代の女の子たちが多いんですね、全国に比べてみたら。ということが今度は、木古内と合わせてみる。ここで何かイベントをやって、実は今日のテーマになると思います、街コンとか色んなアイデアが出てきました。そうすると、どういうことかということ、ここにいる若い女性、高校生くらいの女の子達が外へ目を向けられる可能性がたくさんある。例えば、函館から男の子達とか、札幌からそういうことが出てきた。でも、重要なのは何かやる時は、その高校生とか女の子達が喜ぶようなイベントで、若い女の子達が集まって来るようなイベントをうっていかないと駄目だと。

なにわともあれ、そういう形で子育て支援策をやらなければならない。でも、子育て支援策はさっきみたとおり、そうとう色んなことをやっている。それでも人口が急に減っていているのはどういうことなんだということも含めてできれば、今日のテーマ。

合同会議の中で推進員の方々から非常に長い間ここで暮らして来られたから、過去の話も含めながら指導していただくと、若い人達の意見が少し前向きというか、現実的になるのではないかとこう考えておりますので、そのへんも含めてお願いをしたいというふうに思います。一応そういうかた

ちで、これからグループ討議に入っていきますので、各グループのリーダーの方、前回申し上げました。推進会議の委員の皆様方に自分たちはこういうことを検討しましたというのをまず報告をして、それからグループ討議に入っていただくと。それで、今からやっていただいて、だいたい1時間20分くらい、7時20分くらいまでに、この5項目を整理していただく。追加をするところがあれば追加をしていただいたり、修正するところは修正をしていただいたり、7時40分くらいから各グループで今日の整理の結果を発表してもらおう。というところまで、進みたいというふうに思います。

それからもう一つ、このグループ討議をしていただいている間に、今まで皆さん方に申し訳なかったんですが、例えば暑いですから、トイレ休憩だとか少し深呼吸をしたいとか、あるいは水分補給したいのは、各グループの中で迷惑がかからなければフリーでグループの中で私ちょっと抜けてもいいですかという形で、グループごとで自由にトイレあるいは水分補給、あるいは深呼吸、グループの中でやってください。ですから、この中では何時から何時まで休憩ということはやりませんので各グループの中で判断をしていただきたいと思います。

以上、ちょっと早口で申し上げましたけれども、当り前のことですが色んなサービス、行政サービスもまちづくりも、産業サービスもそうですが、物事は理屈どおりにはいかないのは分

かっている、やはり理屈を作って何かを進めるということで、少し話を進めていただくとありがたい、こういうふうに思っています。ちょっと長くなりました。今の話の中で、よく分からないとか、この辺なんなのという質問があればどうぞ。

大変早口で、資料もとばしとばし説明をしてしまいましたので、何か分からないことがあれば質問してください。いいでしょうか。それでは、恐縮ですが、グループ討議を始めていただくということで各グループフォーラムのリーダーの方よろしくお願ひします。あとはお任せします。

(各グループ話し合い)

では1グループからお願いしたいと思います。

一応、10分くらい時間を差し上げますからどうぞ。足りなければ、過ぎても結構です。お願いします。

○1グループ

1グループです。Ⅱの課題1の子どもの居場所づくりについての検討をした結果だったんですけれども、うちの方は、シニア世代にボランティアを頼み、子どもを預けられる場をつくるという提案をしたんですけれども、まず、そういうふうな支援措置があるのかなのかということも議論して、今うちの町にはそういうふうなシルバー人材センターとか、高齢者事業団というようなものについては、あまり積

極的な活動をしていないと、なのでこういうところに頼むというのは結構難しいのではないのかなという話がありまして、ただ、その代わりに何かあるのかなといひますと、読み聞かせの会とか、お母さん方が中心になっているボランティアサークルがあるのではないかというような話ができました。

あとこちらでいきますと、カフェと託児所が一緒になって、母親達が交流・息抜きができるような場をつくる。というようなふうにあったんですけども、今現在福島町でも保育所の方でゆりっこ広場という未満児の方を実際預かっていて、参加者の子どもたちをもっているお母さんたちが平日の午前中福島保育所にいって、集まれるというような活動をしていますので、こういうふうな活動を広く認識してもらえるような活動をしたほうがいいのではないかという話がありました。

ちょっと順番が飛んでしまって申し訳ないんですけども、3番目ですね、廃校を利用してシニア世代が自分の得意なことを子どもたちに放課後に教えることのできる場をつくる。という点に関しては、福島町はシニア世代以外にも学校の先生とか、一般の会社員とかでも色々自分たちの得意な分野というのがありまして、そちらのほうを教育委員会の方に登録制度があるといひというふうな話もありました。そういうふうな登録をしている人に協力をしたほうがいいのではと

いう話がでていました。

場所については、新しく作るのもいいかもしれませんが、今ある町内会館とか、体育館とか福祉センターとか、そちらのほうも活用できるのではないかという話もありました。あと、さっきの教えられる人の発掘ということで、町民にアンケートをとって、こういうふうな資格を持っていますというような、……とかですね、あとは試験的に他の町とか、そういうところから人を呼ぶのもいいのではないかという意見が出ました。この点については、以上です。

○ぎょうせい

今日はやり方を変えて、今1グループの人は1のことを言ってくれましたが、それでは同じところで、同じように2グループの人が同じ1のところだけ発表して、3グループが発表、終わったらそれぞれ似ているところがあれば意見交換をしていただくということにしましょう。全部行かないでね。それではお願いします。

○2グループ

第2グループなんですけれども、まず一個ずつの説明だったんですけれども、1と2のかぶっている部分がありますけれども、2回同じことを言っていたらすいません、聞いてください。2グループの方なんですけど、まちづくりの委員さんの方からもらった意見を全部まとめて発表しますと、一番最初に星印のところですね。幼児についての施設とか、サポート体制は充実していると思うんですけれども、小学校

の子供の下校後の遊び環境を充実するというところでまずは話をしたんですけれども。

そもそも私達の主観でそういうふうに見えているだけというところがあるのかもしれないので、まず一回小学生の子供達とかを対象にアンケートを取ったらどうかという意見がありました。そこを聞いてみたら、もしかしたら、今の子供たちというのは、この環境で満足をしているかもしれない、公園が本当に必要なのかどうかというのも私達の感覚でいけば、必要だとは思いますが、今はやっぱりゲームとかで遊ぶのが主流なので、もしかしたらそこはもう足りているのかもしれないという話もあったので、そこをまず最初にアンケートをとってという格好は大事なのかなと思いました。

あとは、遊びの場とか集いの場のところなんですけれども、廃校舎を利用した屋内アスレチックとか、色々書いているんですけれども、ここに書いているものの他にツリーハウスなど遊び方というものを子供たちに直接教えてあげたらどうかと、教えてあげる方は先生になれるような町内の方を選んで、遊び方を教えてあげると。もしかすると、その子供たちは遊び方を知らないだけで、教えたらいろいろ遊べるのかもしれないと。やはり、いつの時代も子供というのは、そういうのを教えたら、いろいろ遊ぶんじゃないかということもありましたので、そういうこともしたらどうかという

ことですね。

あと、ここの公園の整備の部分で森林公園、キャンプもできる場所だったんですけども、今は手入れがあまり行き届いていない。遊ぶのも今は整備をされていないので、できないんじゃないかというところも、そういう場所の整備も進めて、そういうふうになれば、子供だけの場じゃなくて、町内と言えば、親子でキャンプというふうなこともできるだろうし、そういう場にもなるだろうし。

ちょっと話は違うんですけども、観光的な面でもそういうふうになれば家族連れの方ですとか、そういう方々が野外キャンプということで、他のイベントと絡めてきたりとか、そういうふうな意味でもつながるので、ここはきちんと整備してやってあげれば、色々つながっていいんじゃないかというようなところがありました。

あと、今の子供たちとのことを考えて、イベントみたいな格好になるんですけども、ゲーム機、DSですとか、そういうものを使いながらのウォークラリーみたいな恰好で、そういうデジタルなものと、町内にせっかくあるアナログのいいものというのを融合して、遊びというものを提供してあげるというのも一つの方法ではないかと。そうすると、今のそういうふうな子供たちの好きなものも使えて、なおかつ自然とかにも触れられたりということで、導入の部分ではとてもスムーズに行くのではないかとということ考えて、アドバイスも出してもらい

ました。1番の、ほぼ2番と同じようなところなんですけれども、以上です。

○ぎょうせい

じゃあすみません。3、4グループのところを発表していただいて、そのあと、質問と質疑にしましょう。

○3、4グループ

3、4グループです。すべてのまるぼつ印をできなかったのも、要点の重要な部分だけ発表させてもらいたいと思います。点3つ目の部分で、子育て支援のPRをもっと強力に行う。パンフレットの作成ということで、この内容の説明の部分が、町の政策として、子育て支援等の部分については福島町ではやっていないというわけではなくて、ある程度の常に色々な政策をやっていると思います。ただ、その政策事態も若い世代の該当のない人たち、例えば母親になった人じゃないと、興味が湧かない政策とかっていうと、すでにあるものも分からないという部分もありますので、そういう部分を一つのそういうパンフレットみたいな恰好で、支援策をまとめたものを作ったほうがいいのではないですかということで、ちょっと話をさせてもらいました。

パンフレットを作るのはいいにしろ、効果的な活用方法という部分で、町内はいいけれども、町外はどうするんだという部分で例えば子育て支援。今年からやっている部分なんですけれども、例えば子供が生まれたらいくら町のほうから交付されるという部分を町外の人が目につく場所という

ことでアドバイスをうけたのは、例えば各全部のバス停に貼るとか、後は集客施設ということで、横綱記念館なり、青函トンネル記念館の来る人達はそのものを見に来ているので、例えばその趣旨から外れるトイレとか、そういう部分とかにも掲示してあげたらそういう方法もありではないかというこの作成の部分については、周知方法として、そういう部分もあるでしょうということで、アドバイスをうけました。

次がまるぼつ5つ目の、新緑公園の遊具の充実というところで、お母さん達から遊具が少ないという声が出てきていたので、ちょっと議題にあげさせてもらっていた部分で、一応新緑公園の遊具もありますし、赤レンガのところイルカ公園というのがあるそうなんですけれども、そこで結構子供達が遊んでいるということで、年齢層によって、小さい子供達が遊ぶ遊具なり、ある程度小学校低学年、高学年という部分で、年齢層によって遊具が違うという部分もありますので、それはその状況によって何が必要かという部分も調べていかないと駄目だということでアドバイスをいただきました。

あと、もう一つ。町として昔から行政の部分で、緑化ということで芝生とか木とかという部分で整備をしているんですけども、ある程度そうやって整備をするよりは、雨とかになったらそういう部分は芝生が濡れて、たとえ晴れていても遊べないとい

うことがあるので、今後の整備方法として、浦和の土とかという部分にして、グラウンドにしてあげれば、芝生を関係なく遊ぶという方法もできるので、そうなれば行政としても費用という部分で、芝生の管理費もかからなくなるので、そういう方向も今後考えていった方がいいのではないかとアドバイスをいただきました。

あと、子供たちの遊ぶ部分でも、親が心配という部分の方法として、過保護という部分もあるかもしれないんですけども、行政としてもその公園とかの遊具で遊んでいるときに、例えば老朽化していた遊具が一部壊れて、それが壊れた原因でけがしたという部分も、何かとなった時に行政の責任とかという部分も出てくる。それも、うちの役場としてもあまりそこまで目を通していないということもあるので、そういう部分のところで、シルバー人材センターみたいなものを新たに作って、たとえばそれがその時期によって、雪かきとか木の剪定とかという色んな部分があるんですけども、動けるお年寄りの人たちが生きがいを持ってできるような格好で、そういう制度を作ってやったほうがいいのではないかと今後の進め方としてのアドバイスをいただきました。その動かし方として参考だったんですけども、ちょっといいなと思ったのが、たとえばそれが無報酬という格好ではなくて、報償費という部分で出すか、それとは別に例としていただいた意見の部分では、例えば100

点なり1000点なり、各町民の人達
がその点数をもって、協力してく
れる人に何の業務をやりますから1
00点でやってあげるよという部分
で、それがある程度点数でシルバーな
りの人が上がっていった部分で、50
0点とかを超えた時には、町の方から
表彰とかそういう部分も一つの取り
組みとしては面白いのではないかと
いうアドバイスをいただきました。以
上ですね。農家の方の田植えの方とか、
体験部分はちょっと検討できなかった
ので、3、4グループは以上です。
〇ぎょうせい

ありがとうございました。それぞれ
今聞いていて何かこんなことを聞い
てみたいとか、自分たちの言っている
ところと同じだというようなことが
ありますか？だいぶ前回から話は具
体的になってきているのではないかと
思うんですが、ここの部分だけでい
うと、今1グループも2グループもア
ンケートという言葉が出てきたん
ですが、またまたアンケートやるん
ですかという私の考え方なんですが、それ
はなぜかという、このプロジェクト
を始める前に若いお母さん方、お父
さん方あるいはうちの方も含めて、そう
いう方にアンケートをしているとい
うと、お子さんがいらっしゃる方はお
母さんの意見、お父さんの意見が書い
ているはずなんですよね。そこで書い
て、今度は小学生にアンケートをして
何が出てくる。することは重要ですよ。
それが主になってしまうと、ちょっと
問題かなという気が実はしました。も

う一つは子育てで、ここのところで私
が気がついたことを申し上げると、例
えばゆりっこだとか読み聞かせとあ
って、すごく重要なことをやっている
じゃないですか、はたしてここに来て
くれている人達がどのくらいいるか
というのを、それをやっている人達が
きちんと把握しているかなんですね。
簡単なことを言うと、国勢調査の結果
を出しましたけれども、あれは2年前
の資料ですが、例えば0～5歳までの
子供たちが例えば120人くらいい
るとすると、保育園、幼稚園に通っ
ている子は60人くらいですよ。半分
の子は通っていないんです。この子
たちも重要な役割をこの町の中で担
わなければいけないという時に、た
とえばこういう読み聞かせとかゆりっ
こに来てくれている、お子さんたちが
どのくらいの人達がだぶっているの
か、だぶっていないのか、要するに保
育園、幼稚園に通っている人達、いな
い人達、そういうところを少しきちん
と整理をする必要が、アンケートより
重要なだろうと。そうすると、そう
いう事業、NPOなんか、あるいはボ
ランティアに参加してくれている人
のほうから、きちんとした話を聞くこ
との方が、アンケートをするよりも重
要じゃないかなと。たとえば、そうい
うことがありました。

あとは、例えば最後のところが言っ
てくれた中には、子供を出産してくれ
たら、ここにあって配布方法は聞いた
のは、この町のプログラムをずっと読
んでいくと、相当な子育て支援をやっ

ているんですよ。その対象事業だったら10人くらいだろうなと、それを1年間にこんなにやっていて、人手がかかっているんだけど、それがもっとお母さん達、お父さん達に頼んだらやれることがいっぱいあるんじゃないの。その時に場所が分散しているからあっちに行かなきゃいけない、こっちに行かなきゃいけないとやっていると、集まる人たちもできない。なかなか1箇所に集まれないから、交流の機会もないし、顔を知りあう機会もこの町の中でもなくなってしまいう可能性もあるのかなという気が、私の方はこの部分ではしておりました。ですから今後また、今日の意見を整理してまた皆さんに戻しますから、最後の方にいくまでは、ここで整理をしておきたい。

次に、2番目。地域の特性を活かした場づくりのところ、発表があればしてください。1グループお願いします。

○1グループ

子供の居場所づくりの件ですけれども、ここでやはり大まかな話になってしまったんですけれども、個々のイベントについては、各学校とか、子ども会単位、町内会単位の方で、やっていることはやっていると。ただ、それについても単発になってくる部分が多いとか、基本的に中心になってやる人がどうしても限られてくるとか、そういうふうな今現状になっている。そういうふうになることもあるものですから、きちんとした運営単位をつ

くって、そこに2~3人でも人を雇ってやるのもいいのではないか。そういうふうな中心となる人物を今福島でもやっているんですけれども、地域おこし協力隊の2人を3人に増やして、増員してきちんとお金をかけて、その人達が中心となってまず運営というか、・・・をとってもらって、そこに今、福島町でもインストラクターとかスポーツのできる人とか、登山活動とかそういうふうな教えることができる人が数多くいると思うので、そういう人と協力をとって進めたらいいのではないかというような話になりました。以上です。

○ぎょうせい

ありがとうございました。じゃあ、2グループお願いします。

○2グループ

私達の方なんですけれども、地域の特性を活かした場づくりということ、まず最初に出てきたのは、さっきの1ページ目の話と同じような格好ですね。遊びの方法というんですかね、地域の特性にあった昔ながらの遊び方というのをまず教えてあげるといようなイベントというんですかね。そういう教室とかをまず作ってあげたらどうかというような話が一つありまして、私たちの2グループの最初の意見であった、廃校活用のところですね。どちらの意見にも廃校活用と出ているんですけれども、そもそもうちの町の廃校で活用できる場所というのはどのくらいあるかという話になると吉岡小学校くらいで、あとの学

校は利用するには結構手を入れないといけないうらうとか、実際本当に使うとかなったときに、耐震の關係とかでひっかかったりする部分がありますので、まずそこの部分は1回外したほうがいいのではないかといいところ、まずそこの廃校の活用といいいところはおいといいい、何のイベントをするかといいいような格好の話をしました。私達の方で、一番話が大きく出たのは、この1項目目のかっこの中にあります岩部の自然鑑賞です。そこの部分の話が出ていまして、実際子供だけではなく、我々大人でも町内に住んでいて岩部に行ったことがある人って何人くらいいるかといいい話になると、若くなればなるほど、行ったことない、みたことない、話でしか聞いたことがない、といいいような人が多いらうといいいことになりましたので、そこの部分をもっと重点的に、例え船を借りていくと簡単に言っても、なかなかやりづらいいところがありますので、そこの部分もイベント的な感じで、年に数回やったらどうだといいい話が出ていまして、すごいいいなと。私も実際岩部の方は見たことがないです。こいうふうにいそこからつなげて、子供たちにも自然といいいのを見せてあげて、そこから色々つなげていけるような格好でといいいことで、まずこいうふうな鑑賞会みたいなものを作るといいのかなと思いいました。2項目目の他町の小学校の交流の方はあまり話せませんでしたので、うちのほうはこれで終わります。

○ぎょうせい

それでは、3グループお願いいします。

○3、4グループ

3、4グループでは、一つ目を中心的に話をさせてもらいいました。

今ちょっと流行りの部分なんですけれども、街コンといいい都市部の人に町単位での合コンのでっかい部分で今流行っているらうで、何千人規模の部分で町に集まって、若者の出合いをする場を設けているような格好で、といいいのが今流行りの部分で動いているらうです。そこの部分で、当町としても、近隣町の函館市内を含め、4町でこいう人たちを対象に、街コンプロジェクトをやってみてはどうかといいいことで、話をさせてもらいいました。行なうにあたって、プロデューサーを誰にするかといいい話の部分まではちょっといけなかったんですけれども、こいう部分になれば、行政なり、商工会なり、観光協会なり含んでプロジェクトはやらないとだめだと思いいんですけれども、大変は大変ですけれども、費用がかかるかといいいところには基本的にはそんなにかからない部分だとは思いいています。この部分でやるにしろ、アドバイスでもらった部分は、例え若いい人たち、いい年齢の人たちが出てくるのでお酒を飲んだときの、宿泊施設に問題があるといいい格好で、こいう部分を考えながらやらないと、実行は難しいんじゃないですかといいいのを一つアドバイスとしてもらいいました。ただやるのであれば、酒を飲んで食べるくらいであれば、どこの

街でも自宅とかでもできる話なので、福島町でなければできないという部分で、街コンという部分は各商店街、飲食店の協力をいただきながら行わないといけないので、その地域特性を活かした食材なり商品という部分を出してもらって格好にすれば福島に来てよかったなという部分もあるので、そういう進め方をしたらいいのではないですかということで、アドバイスをいただきました。3、4グループは以上です。

○ぎょうせい

今、それぞれグループで発表をしてもらってどなたか他のグループでこういうことはどうするの、ああいうことはどうするのというのがあれば。

どうですか？今、街コンという話がありました。僕はこれはすごく危険視しているんですね。実はこれは前回フォーラムの人には言ったんですが、私もいくつものところ、街コンのプロデュースをしましたけれども、皆さんが思っているほど楽じゃないんですね、実はね。このことはどうするのかと今宿泊という話が出ましたけれども、宿泊以前にどういう意味で街コンをやるかということから考えないとえらいことになりますよね。たとえば、やるなということではないんですよ、やるとすればそういうことも含めてだから、要するにせっかくフォーラムで若い人、それから色々なアドバイスを集めたんだから、ここでいうとたぶん目立つところは、廃校の活用は後回しにするということになった

けれども、本当に廃校を後回しにしていいのというのもあるんですね。実は全部の廃校を考えるのか、拠点を作るのかということがありますから、学校を辞めて廃校跡地じゃないところといたら、こういうところがありそうだと何かありませんか？じゃあ何かやりましょうということだけだと、なかなか難しいんじゃないでしょうかと。

○委員

よろしいですか、今2グループの方から話があった廃校活用ということで、岩部海岸という話が出たんですが、岩部の廃校はもう使えないでしょ。中に入って見ました？私、この間行って見たんだけど、入ってあれするような状態じゃないので、岩部の中学校の廃校は使えません。ですから、解体しなければならいでしょう。まず、それが一つですね岩部海岸のことについては、今年の5月か6月に、あそこは水源地がありますよね。福島町の水源地は岩部ですから、皆さん行って見たことはありますか？水源地まで。この福島町の水は、岩部の廃校のまだ奥の一番山のどんづまりのところに排水地があるんです。そこから管でもって福島町に水が来ているわけですから、そこへ行って見てきました。もともとは、岩部はだいたい何百人も住んでいたところですから、小中学校があったわけですよ。今は4～5件しか住んでいませんよね。だけど、自然はかえって人間が住んでいたときより豊かになっているわけですよ、人が住んでいませんから。それで、実はこの子

供たちを呼んであそこでもって、海岸体験をしようじゃないかという話は実は私は水面下でやっています。というのは、去年東北の大震災の時のその時の復興委員をやっています政府の高成田さんという方がおりまして、この人は朝日新聞の論説委員、久米宏の時にタックでやった人なんです、その人が今足長おじさんをやっています、親が亡くなった子供の義援金を集めていまして、この人が今年の春、東京農大の客員教授になりまして、何とか福島とも東京農大と提携を結んでいるので、同じ地名で福島だということで、どうだと岩部海岸ということで写真は見せたんです。ぜひそれだったら子どもを連れて行きたいと。そうすると泊まるところがどこだって話になったらキャンプでもいいんじゃないかという話になった、廃校は使えないから。そういうことで、具体的にやる場合に、誰が引き受けてどうするんだという話まで、こういう会で今話が出たものですから、僕は自分であれしたから自分でやろうと思っています。仲間を集めて、キャンプの手伝いから何から。具体的な話はコーディネーターの方も言っていましたけれども、具体的に進められない話をいくらここで書いても意味がないんですよ。だから、どっかでもってやっぱりこれは駄目だなと思ったら、議題から外していかなければならないということなんです。いつまでもここに残しておいてもしょうがないんですよ。だから、もう一歩進んでいったら、やっぱりこれ

はちょっとまだ早いとか、まだ時期早々だなとかいったらここから外してしまって、具体的なものでせめていて、……がいくらになるかというやり方の方がいいんじゃないかと。だから、岩部海岸と岩部に行ったことがありますかというのなら、皆さん行っているでしょ、車で。矢越まで行ったことありますかじゃなきゃ駄目なんですよ。岩部は車で行けるんですから、行く気になったらすぐ行けるんです。ただあそこはすぐ行き止まりですから、たいして見ることもないんです。岩部から船に乗って矢越まで行くことによって初めて道南の知床といわれている意味が分かる。こういうことで、話を進めてもらいたいと思います。○ぎょうせい

ありがとうございました。今の大変重要な意見をいただいて、たぶんだから町の中にはそういうふうに一生懸命やってくださっている方がいらっしゃるんですね。こういう情報を交流しながら、初めから外に出すと潰れちゃう話もありますが、せっかくこういう場ですから、そういう情報がきちんと交換できないと、あっちやこっちで色んな事をやるんだけど、それは金と尽力がかかるだけばらばらになってしまうことがありますから、たぶん今のところはそういうことで、これから何かやられる時にぜひこのフォーラムの人たちも参加させていただいて、一つずつ作っていく必要があるなと思います。

それでは、次にいきます。今日は発

表の仕方をちょっと変えているもの
ですから、今回は自分たちで上位にあ
げたものだけ発表してもらいました
から、そこから落ちたのは当然消して
いくという前提にあります。今日は横
並びに5項目だから、全部発表して
もらっていますので、本来後回しにし
てもいいものを発表してもらって
います。1グループお願いします。次、3
番目。

○1グループ

議論のペース配分を間違えてしま
って、雑駁的になってしまって申し
訳ないのですけれども、若者の居場
所・交流の場づくりということで、
まず2点目のトンネル記念館のスク
リーンを利用して映画上映をする
というのは、何回も他の方で団体
とか実行委員会形式の方でやっ
ている事例がありますので、まず
これは可能ではないかという話
がありました。

あと、3点目でスナックを昼間カラ
オケボックスとして、高校生に開
放するという点をあげたんですけ
れども、こちら結構、夜にスナッ
クをやっている部分が、昼間も
開けてそこまで協力してくれる
のかという部分がありまして、
カラオケについては若者だけで
はなく、色んな人が楽しめる
ものでありまして、町内でも
カラオケサークルが何箇所か
あるということを知りました。
カラオケサークルですね、個人
の団体のほうで機械を持っている
という事例もありましたので、
そういうふうな事例もあるのだ
れば、どこかそういう福祉セン
ターとか別な貸

しスペース的なものを作って、そ
こでカラオケをするということの
ほうがいいのではないかという
話ができました。ちょっと短い
ですけども、うちの1班は以上
です。

○ぎょうせい

はい、それでは2グループお願
いします。

○2グループ

2グループなんですけれども、ま
ず大きく話をしていたのが、近
隣4町で若者を呼んでのイベン
トをできないかという話をし
ていたんですけれども、やはり
4町だけでは狭いのではない
かと。意味合いがどうしても
婚活的なものになる場合、や
っぱり最低でも函館くらい
まで広げてというふうな格好
でイベントを組んだ方が、後
々色々つながってくるのでは
ないかと、カップルとかそう
いうものもありますし、人と
人との交流という意味でも、
もっと大きくした方がいいの
ではないかという話が出てお
りまして、ここで書いている
4町のイベントというのを函
館くらいまでせめて広げて
という格好で、こういうふう
なイベントを組んだ方がい
いんじゃないかというところ
だったんですけれども、広げ
るのはいいけれども、例えば
そこで、この間商工会の皆
さん方のイベントの実際の
例を教えてくださいました
んですけれども、そういう
ふうな会を開いて一次会が
終わって、例えば2次会
まで全部セッティングしま
したよということで、やっ
てもまず泊まる場所がない
ということで、だからとい
って終わ

ってからそこまでやって深夜の時間に人を送迎するのかということも難しいんじゃないかというのがあったので、そこが場所を夜の飲み屋とかじゃなくて、昼間にビーチの方で明るい時間という格好でやると、そのあとの送迎ですとか、そういうところというのが完備してできるのではないかと。それでその時に、今町でやっているツブとかそういうのを撒くやつも、そのイベントの時にちょっと量を多めにしてやるとか、そういう話題性もつけられれば、皆目に留まったりとかということでイベントも盛り上がるんじゃないかなということで話をしました。私達のほうで直接議論したのはそこだけです。あとは、企業間の飲み会というふうなもの、視点が変わってという意味では、いいんじゃないかということで話をいただきました。

最後の部分は、話をできないで次についてしまったので、うちの方はこれで終わります。

○ぎょうせい

はい、ありがとうございます。3、4グループお願いします。

○3、4グループ

3、4グループについては、まるぼつ1つ目を、重点的に話をしました。ここの、情報ステーション的なものを建て、その中にテナントを貸与して起業してもらうということで、分かりやすく説明しますと、町の中心地なりそういうところに、若者の部分に高校生も入れて、例えばテナントの部分で高校生に放課後なりアルバイトとかし

てもらうような格好で、今高校でも去年とかも役場の方へ来て説明をしてもらったんですけども、黒米ライスバーガーとかっていう部分で、商品とかも作ったりしている部分もありますので、高校生がアルバイトしているところに高校生が来て、なおさらそこで人が集まる。そういう部分で、高校生だけならちょっとなという部分があって、大人も入っていたりということで、人の交流できる施設が出来るのかなと。そこに若い人達で、起業したいという人がいれば、一時的なお試みたいな恰好で中の施設の一部を使って、そういう場をできるような施設があればいいですねということでちょっと意見を出させてもらいました。アドバイスをしてもらった部分については、新しく建てるという部分では、やっぱり費用も大きくかかりますので、集客施設という部分は、大きく言えばどこでもいいという部分で、例えば町の方の部分でも空き家とかっていう部分もあるので、その空き家を使っているそういう部分であれば、色々出来るのではないかとということで、アドバイスをいただきました。あと、参考までに高校生という部分の話があったところもあったので、高校生に例えばの部分で会社を起こさせてあげれば、それは商業高校として後々、商業の部分でも高校生たちにもいい勉強にはなるのかなということで、それには出資金として、親なり関係者が協力してそういう部分の進め方も面白いのではないのかなということで、

そういう意見もいただきました。以上です。

○ぎょうせい

はい、ありがとうございました。各グループ間で何かありませんか？たぶん今4グループはかなり面白い、高校の話までいきましたからね。起業家育成、前回のところにつながってくる場所ですからもし何かあれば。

例えば出資金、ちょっと今名前を度忘れしちゃったんですけども日本で最初に居酒屋横丁、ここでいうと大門、函館にありますけれども、あれを作ったのは八戸なんですね。八戸の商店街の町中にある居酒屋横丁は、中居さんという方が作ったんですが、この方は今ここで言っている出資制度なんですね。要するにお金、施設は公共が造る。これは、組合が造りましたけれども、そこに若い人達がお店をつくる時に、設備者なんてお金が2~300万円かかっちゃうんですね。これは何をやるかという、そういう組合を作ったり、行政が担保して保証人になって、民間から借りさせるんです。銀行からね、そうするとやっぱり利益を出さなければならぬですから、ただしそこは3年間いたら外へ出て下さいと。そこで勉強をしたらそれをもって街中で飲食店でも何でもやってくださいと、こういう仕組みなんですね。たぶんそのことを考えておられる方がアドバイスをしてくださったと思うんですが、そういう形でいくと、やっぱり町の中にお店も出てくるし、高校生たちの実証の実験の場にもな

る。古くから経営をしている人達はその経営の手法を教えてあげられるとか色んなことがあるんですね。だから、これ非常に面白い意見がこの4グループの中にはあったかなと。これはもし時間があつたら、八戸の手法ですから分かると思うんですが、中居さんという方が仕掛け人です。これは、ホームページを調べるとすぐ出てくるんですね、日本の発祥なんですね、そういう横丁づくり。屋台村っていいですかね。ですからちょっと勉強してみてください。

次、4番目。すいません1グループまたお願いします。

○ぎょうせい

前回このような5項目をあげたんですけども、時間がなかった関係もあるんですけども、基本的に下の備考のイベントをシーズン化し継続性を持たせるための仕組みは？ということで、どうしても今までの福島町のイベントは特定の人と言えれば変ですけども、何人かが実行委員ですとやっていて、その人が辞めてしまうと、急にそのイベントが終わってしまう場合が多いと。そういうふうな事例があるので、そういうものをいかに継続性として持たせるような仕組みとしてイベントをやるためにはどうしたらいいのかをもう一回終わってしまったイベントを再点検というか、そういうのをしたらどうかというような意見と、あとイベントも町内と町外向けのイベントがあるんですけども、町内向けのイベントについてもなか

なか町民があまり参加していないのではないかと、そういうのがあるのであれば、町内の方が積極的にもっと参加できるようなイベントの広報の仕方の方を検討してはどうかという意見ができました。ちょっと短いですが、1グループは以上です。

○ぎょうせい

ありがとうございます。では、2グループお願いします。

○2グループ

2グループなんですけれども、ちょっと時間の都合で話をできませんでした。

○ぎょうせい

じゃあ、ここは飛ばしましょう。要するに重要度が両方とも書いていないところだから。ここで4グループは重要度も高い、緊急度も高いと書いてあるから、4グループお願いします。

○3、4グループ

お恥ずかしながら、こっちも時間がなくて話合えなかったんですけれども、ただ、雑談の中で出てきた部分で今回みたいな恰好で、町民フォーラムを去年からやっているんですけれども、実際今年という部分でどちらかといえば、行政の職員の方が多いという現状があるという話をちょっとして、やっぱりそういうイベントなりそのことを進めるという部分であれば、民間の方の力が絶対有利になるという部分が、行政としたら色々束縛されてできない部分があるということ民間の力もとりにあえず入れないと、ということでちょっとお話をさせて

もらってまして、自分も事務局で分かっている部分ではあるんですけども、なかなか現状として、今の方を抑えればなかなか民間の人達の力が得にくい状況というのが実際の状況になっているので、それは今後どうにかしていかなければならない部分があるので、本人たちの方も意識改革というか、ある程度自分の身になるという部分のことじゃないとなかなか協力しがたいというか、話題自体が遠いものだという部分で、今の部分では認識しているので、そういう部分を解消させるためにはどうにかしないと駄目でしょうねという雑談形式の見当はしていないんですけれども、そういう話もさせてもらいましたので、それはちょっと考えていかなければならないなということで、具体的な取り組みを何するという話ではないんですけれども、そういう所の話はちょっとしました。

発表にはなっていないと思うんですけども、それでちょっとご勘弁お願いします。

○ぎょうせい

これもちょっと重要なことですね。今、そういう話がありましたから、まちづくり推進会議の委員の皆さんはお気づきになっているかと思うんですが、実は去年は80人くらいいらして、町の各グループの代表の若い人達もいらっしたんですね。私の仕掛けの失敗もあったんですね。もうちょっとこういう町だから、こういうことをやろうとしているから、町民間のコ

コミュニケーションがとれているだろうという前提がありました。ですから、ここに参加をしている、若いフォーラムに参加している方は分かっていると思うんですが、最初何でもいいから定住だとか、若者の子育て支援について紙に書いてくれませんかとか筒条書きでもなんでもいいから。それで、書いてくれたのをグループの中で読んで、自分はこう思うということをやってくれませんかとかやってしまったんですね。慣れている方はそれで進むんですね、こういう会議を。色んなところで、色んな人が集まって会議をしているところだと、でも残念なことにはここはそういう経験がなかったんじゃないかと思えますから、自分の意見を書かなきゃいけないとなると、書けないんですよ。この紙に書くこと。今回なぜこういう形でやって私の意見をあまり言わないようにしているかという、何かで先導してしまってもいけないんですが、またここに来るとなんか言わなきゃいけない。また考えなきゃいけないとそれだけで、申し訳ないけど引っこんでしまう。要するに、若い人たちが純真なんですね。ですから、せっかく合同会議という形で、推進会議の委員さん達が出てきていただいているような場をなるべく回数を多くしていくことが重要だろうと、ですからこのところではこの町民フォーラムがここで言っているように100人会議みたいなのに、代行できませんかと書いてあるのは、経験している人達がどんどん輪を広げない

限りは、なかなかうまくいかない。ちょっと余計なことですけどもね、そういうことだと思います。そのためには、年長者の人達の参考意見を若い人達が聞きながら、若い人達は自分がこう思うよという意見を常日頃やっていないとなかなかうまくいかない。ですから、これは申し訳ない私の最初の仕掛けもね、若干まずかったというところがあるんですが、そういうところも含めて今度これをうまく活用したい。こう思っていますから、よろしくをお願いします。

では最後、商業高校のところにいきます。

○1グループ

1グループなんですけれども、前回こちらの方で重要度と緊急度が高いということで、あげさせてもらったんですけども、議論の時間配分と進行の下手際もありまして、その緊急度と重要度が高いということを確認した時点で時間切れになってしまったので、詳しい取り組みとかについてのそういう討論とか、話し合いはできませんでした。以上です

○ぎょうせい

はい、ありがとうございました。では、2グループをお願いします。

○2グループ

2グループなんですけれども、高校についてのところなんですけれども、まず高校の学科という話の前にイメージの話から入ったんですね。

この話の前の、イベント等の話の余談から始まったんですけども、はっ

きり言ってしまえば、福島男性とは結婚したくないと思っている女性がいるというところから話が始まって、なんでだという話をしたら、適切な言い方かどうかというのはあれなんですけれども、イメージとしてとらえてもらえればいいんですけれども、福島に残っている人というのはどうしても町外に出てった方と比べて劣っているというイメージがやはり先行してしまう。だから嫌だと感じている方がいるというふうな現実があるという話で、その部分をいろいろ掘り下げていくと、やはり福島商業高校のイメージが、なんかの事情があって函館に行けなかった人、もしくは学力のレベル的に外に出られないからということと、そういうふうな意味で仕方なくいくというイメージがどうしても強いというところがあるので、だからどうしても、地元の子供たちも実際学校としては色々やっていると思うんですけれども、その前のイメージという部分で引っかかるという部分はあるんじゃないかなという話が出て、確かにそれはそうかもしれないし、私達もそういうふう感じている部分があったなというふうに思いました。なのでまずその部分、本当に出てきた例でいけば、学校の名前事態を変えてしまうとか、それくらいのことやってもいいのではないかという話も出て、それくらいしないとイメージというものは変わらないのかなというふうにも感じましたし、イメージというか福島商業に来ると、まずこんない

いことがあると。町内の人でも、そういうイメージがついていかないとここのというのは町外からも人は来ないだろうということなので、そういう意味で町外から魅力的だと感じてくるという学校をまず作るという方向というのが大事だよ、というような話をして中の議論に入ってしまったんですけれども、私達の方で水産科や普通科を作るというところ、確かに今これから水産科や普通科を作るというのは、とてもエネルギーが必要なことで、大変なことじゃないかということはお出たんですが、その部分、それでもちょっと例が出ていたんですけれども、鹿部の方で漁師の専門学校みたいなところがあって始まっているし、東北の方でも学科を新しく変えてなのか作ってなのか、そこまで詳しく聞いてなかったんですけれども、木工の関係とかで学科をやったら、関東の方からも人が来たよという例もあるしということで、そういう意味で町外に対するアピールみたいな恰好では、その新しい学科を作るというのはいいんじゃないかと。さらに、その部分がどうしても厳しいようであれば、すぐに今できるとすれば公務員の試験対策、この部分は新聞にも取り上げられていて、かなり話題になって評価もされている部分でありますので、その部分をもっと売り出して、福島商業高校に来れば就職できるですとか、そういうふうな部分というイメージをつけて、皆が行きたくなるようなという恰好でやらなければいけないんじゃない

ないかと。というような話で進めていました。

それで、一番最後になんですけれども、PR方法について、今学校のホームページ、オフィシャルサイトあるんですけれども、そこ以外にそちらの方に誘導する学校で色んな事をやって、実際の取り組みというのはいろんなことに特科して、函館の函商、商業高校の方の先生の授業も受けられるとか、いろいろな取り組みがあるんですけれども、やはり浸透しないとかっていうのもあるかもしれないので、そのPR方法を、例えば町のホームページにも大きく載せるですとか、本当にいろんな人の目に留まるように、PRのものを大きく載せるというのがいいのではないかという話が出ていました。以上で終わります。

○ぎょうせい

はい、ありがとうございました。じゃあ、4グループこれも高いというふうにしていますからお願いします。

○4グループ

4グループの内容について、うちの委員というか、要望の部分の格好にはなると思うんですけれども、上から下の点まで書いていますとおりですけれども、選択制みたいな恰好で、漁業部を発足させるということで、これの意味はここに書いていますとおりですけれども、放課後の部活動の一貫として、漁業体験を高校生にってもらうということで、最終的には漁業に関心を持った方が町内に定住をして、最終的に漁師ということで起業し

てもらえるような機会を持てるような格好の取り組みもいいんじゃないかというのと、その二つ目の部分で、水産業農林業の授業体験という部分と、相撲に特化した取り組みということで、相撲部という方向として作ってあげるといいのではという部分が一つと、あと、現在はIT社会ということで、システムエンジニアの育成ということで、高校の方でもパソコンに触れる機会もありますので、なおさら未来大との包括連携もしていますので、そういう専門職みたいな恰好の機会を設けて、ここは授業の一環の一つで選択制の部分というのもできればという格好で提案をさせてもらったんですけれども、そういう魅力化もありなのではないかという格好で、記載させてもらっています。

あと、資格取得の支援ということで、なかなか就職も厳しいということで、今年度からだったはずなんですけれども、大原簿記専門学校の方で公務員試験の勉強をちょっと手伝ってもらえるような環境が整っているような格好になっていますので、そういうような資格取得の勉強機会を拡充させるということで、うちでこのような発表をさせてもらったときに、なかなかそれをすべて高校生にやってもらうということは、難しいんじゃないのかという話もありましたし、また、相撲に関しては小学校中学校でもうすでにやっている部分だから、そこまでやらなくても、たとえ高校生がそういう特待生とかっていう部分でもうけた

時に、プロにいくっていう人達は中学校を卒業した段階で、各相撲部屋とかにいたりという部分があるので、高校でそういう取り組みをしても、ゆくゆくはそれで飯を食っていくというわけではないような格好になるので、その考えも必要なのではという部分で、すべてがすべて高校生にやってもらうというものではなくて、高校のなかで、その高校生自身が選択してもらえるような部分をとっていう授業項目なり、部活動なりっていう部分が可能であれば、こういうような意見を高校の方にも出してみたいなということで、ちょっと発表させてもらいました。以上です。

○ぎょうせい

ありがとうございました。今のその最後の学校のところでありませんか？なければ、ひとつここは、全くガラッと話を変えて、今あそこは福島町立じゃないんですよね。道立なんですね、だからすぐ何かをできるというわけではないんですが、フォーラムの方々には去年私がお話したと思うんですが、北海道の音威子府村の高校ね、あれがどういう形で全国から子供たちを集めたのか、あそこも交通不便ですよ。高校で何かやるときに、すごく重要なことは交通の便だよ、通学。それから、もう一つ町おこしをやる時に宿舎がないという、宿泊施設が。そうすると、例えば音威子府村が何をやったかということ、全寮制にしたんですね。

例えばあの商業学校が、道が許可し

てくれて、全寮制にした時にどうなるかということ、夏休みは期間だからみんな帰るんですよ、実家に。そうしたら、その間皆宿舎が空くんですよ。これは、アメリカとかヨーロッパで高校とか短大でよくやっていたんですが、空いているときに、イベントのお客をそこに泊めたりとか、学校と連携をして、自分たちは町のPRをするんですよ。だから、教育と産業と連携をするんです。子供たちは特殊な相撲部でも水産部でもある時で来ると。でも、夏の場合はここは逆に言うと、漁業は忙しい。でも、逆に言うとその子供さんたちがいなくなっていく、夏にイベントとか色々なことをやるときに、宿舎をどっか造らなきゃいけない、何を考えるよりも学校がもし寮があれば子供さんが帰っている間、夏休みの期間は寮を宿舎として活用するイベントを考えるとかね。これはヨーロッパの小さなまちおこしをやるとうとき、ほとんどそういう格好で動いている。だから、そういうことも含めてなにかやると、じゃあ何をすると、それじゃこういう科だとか公務員だとか色々な事が考えられる。そうすると、そういう話を道に持っていけば、先行事例は北海道の中にもあるわけですから。そうすると、また少し違った展開もできるかなという気がいたします。ただ、私の意見は言えないのでここはそういう場じゃないですから、今日はそういう形で、皆さんの意見を聞かせていただいて、だいぶ前回よりはじゃあどうするのというところが見え始めま

したから、この今日の発表の結果をまた私の方で整理をして、また皆さん方に戻します。

同じことを今度は別のテーマでやりますと、3回ほど会議でつめると、どれとどれをまとめて一つにしたら手を打ちやすいとかどっか詰めるというのが見えてくると思いますので、そういうことを期待しながら一応今日の合同会議、どなたか意見があればお伺いしますが、もしなければここで終了させていただいていいですか？じゃあ一旦今日の合同会議はここで閉めという形にさせていただきます。ご協力ありがとうございました。